

5 ヨーロッパの工業とEUの影響

○拡大するヨーロッパの工業地域

18世紀の半ば以降:イギリスやベルギー、フランスを中心に工業が発達

→鉄鉱石や石炭などの資源を生かした重工業が発達

例) ドイツの()など

1960年代:エネルギーの主役が石炭から石油へ

→石油化学工業が発達、臨海部^{りんかいぶ}へ工場が集中

例) ロッテルダム(オランダ)やマルセイユ(フランス)など

現在 自動車工業や医薬品・航空機の生産など、()が成長

→産業の中心地が大都市近郊へ移動

例) ロンドン(イギリス)やフランクフルト・ミュンヘン(ドイツ)など

パソコンやスマートフォンなど、ICT関連産業が発達

→工業が盛んな地域がヨーロッパ各地に拡大

例) スtockホルム(スウェーデン)やヘルシンキ(フィンランド)など

○EU統合により発展した航空機産業

エアバス社の設立:航空機の生産でアメリカに対抗、フランスとドイツの航空機メーカーの出資で設立

→EU諸国の企業も参加、各国のメーカーの専門知識を生かして国際的な分業を行う

→EU各国で部品を製造し、トゥールーズ(フランス)での最終組み立て

○EU統合による東ヨーロッパの工業の変化

2004年以降:EU加盟国が東ヨーロッパにまで拡大

→新たに加盟した国々は、工業化が遅れ比較的所得が低い傾向

┌ ドイツやフランスに働きに出る人々が増加

└ 東ヨーロッパの国々にドイツやフランスの企業が工場を移転、日本の企業も進出